地域からこころの医療を考える

News Letter　vol. 2　2021/1/20発行

～コロナ禍を生きる～

新年あけましておめでとうございます。

昨年から世界中を震撼させている新型コロナウイルスの影響はとどまることを知らず、私達の生活は一変しました。医療体制に対する影響も甚大であり、先生方におかれましても、日々大変なご苦労をされておられることと案じております。自治医科大学附属病院精神科では診療室内にビニールカーテンを設置するなど万全の対策で診療しています。

しかし当科では、beforeコロナと比較して外来患者数が約1割減少しています。精神科患者さんの専門医療機関への受診控えが生じている可能性があり、今後が危惧されます。まさに今こそ、プライマリーケアの先生方と精神科の連携強化が必要とされている状況であると考えられます。

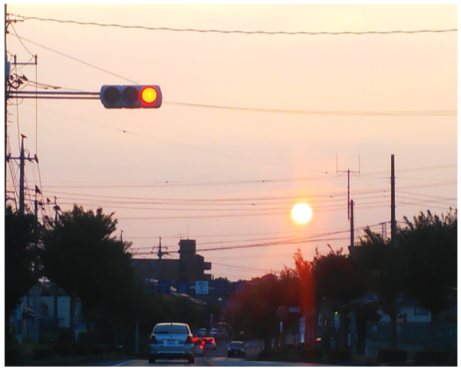
私達はこの問題に取り組むために、地域における精神科医療ニーズの詳細を検討することとしました。本ニュースレターにアンケートを同封しておりますので、ご協力いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

自治医科大学精神医学講座　教授　須田史朗

近況報告

2020年末から栃木県では新型コロナウイルスの感染者数が爆発的に増加しています。年末時点で入院待機患者数が入院患者数を上回り、2021年1月14日からは栃木県全域に緊急事態宣言が発令されました。自治医科大学附属病院でも重症患者の治療を中心に病院の総力を上げて取り組みを続けています。しかし、新型コロナウイルスの重症患者は長期化することが多く、周辺の医療機関の病床逼迫も顕著であり、なかなか先が見えない状況です。実際に、コロナ以外の緊急疾患の救急搬送にも支障が出ている状況ですので、可能な限り病院にかからなければならない状態にならないよう、国民全体に対する予防医学の徹底が必要かと存じます。私も年末からスタチンの内服を開始しました。

精神科医療につきましては、県内の総合病院精神科にコロナ感染症病棟を設置、運営を開始しています。県内精神科病院でのクラスター発生が続いており、十分な期待に応えられてはいない状況ではありますが、これらの対策の結果をまとめ、先生方にも報告させていただきたいと考えています。



自治医科大学附属病院付近の夕焼け
私達にはお馴染みですが、卒業生の先生方にはお懐かしい風景でしょうか。

発行
地域からこころの医療を考える会
〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311-1
自治医科大学　精神医学講座　内
TEL：0285-44-2111（代表）
Email：psychiat@jichi.ac.jp

編集委員
福田周一、山内芳樹
編集長
須田史朗

せん妄の治療について

せん妄は①準備因子：高齢、認知症、 脳神経系の疾患など②直接因子：侵襲度の高い手術、 代謝異常、 電解質異常、感染症、薬剤など③誘発因子：環境変化、不安・ストレス、疼痛、睡眠障害、便秘、身体抑制など、が組み合わさって生じる病態で、意識障害に様々な精神症状が合併します。

せん妄の治療では、「関連している因子を除去する」という引き算的な考えが原則となります。準備因子を消失させることは一般的には困難ですので、まずは直接因子への対処、すなわち原因疾患の治療が最優先となります。次に使用されている全薬剤を入念に確認し、これらが直接因子として関わっている場合は減量や中止、他剤への変更を検討します。例えば、オピオイド、睡眠薬、抗不安薬（ベンゾジアゼピン類）、抗コリン作用のある薬、H2ブロッカーなどが、せん妄出現の少し前に開始・増量されていれば直接因子になっていることが疑われますので、中止を考える必要があります。ただし、疼痛管理としてオピオイドが必要な場合は、疼痛コントロールの不良がせん妄の誘発因子となりえますので、他剤への変更を検討してください。また、上述のせん妄の誘発因子（環境変化、不安・ストレス、疼痛、睡眠障害、便秘、身体抑制など）の確認と対処も必要です。

せん妄の薬物療法では抗コリン作用の少ない非定型抗精神病薬がよく用いられます。使用量は統合失調症に用いる常用量の1/4～1/2程度が妥当です。また、抗うつ薬の一種であるトラゾドン（25－100mg）も比較的安全性が高く多用されます。近年では、ラメルテオンやスボレキサントなどの新規不眠症治療薬投与によるせん妄予防効果が報告されています。ベンゾジアゼピン類はせん妄を悪化させることが多く推奨されませんが、肝不全や腎不全などの臓器不全に伴う終末期せん妄など治療が困難な病態で鎮静目的に使用されることがあります。

興奮や幻覚などの陽性症状の少ない低活動性せん妄の場合には、抗精神病薬による薬物療法が傾眠を悪化させることがあります。その場合は環境介入を中心に治療を行います。照明の調整（昼は明るく、夜間は暗く）、日付・時間の手がかり（カレンダー、時計を置く）、眼鏡、補聴器の使用、親しみやすい環境を整える（家族の面会、自宅で使用していたものを置く）、オリエンテーションを繰り返しつける（場所、日付や時間、起きている状況について患者自身が思い出せるよう手助けをする）、といったことが有用である場合があります。

自治医科大学附属病院精神科　受診案内

診療内容：統合失調症、うつ病、躁うつ病、パニック障害などの不安障害、摂食障害、器質性・症状性精神障害、心身症、てんかん、児童・思春期精神障害、老年期精神障害、在日外国人精神障害など広範な精神科疾患を診察しています

診療日時：月曜～金曜　午前・午後（初診は午前、予約制）

特殊外来：もの忘れ外来（月・金）、治療抵抗性うつ病外来（金）
ポルトガル語外来（火）
いずれも完全予約制

＊急を要する診療依頼は自治医科大学附属病院病診連携室を通じてお申し込み下さい。

Jichi Medical University Hospital
Dept. of Psychiatry
Founded in 1972